

新ホール整備に係る発掘調査結果について

1. 調査概要

遺 跡 名：徳島城跡徳島町城内地点
所 在 地：徳島市徳島町城内 1 - 2 0 ほか
調査面積：330㎡（新ホール部分） 6㎡（NTTケーブル管路部分）
調査期間：令和 5 年 1 月～ 6 月

2. 遺跡概要

徳島城は、天正 13（1585）年に蜂須賀家が阿波国の領主となって築城した、本丸をはじめとする「城山」と御殿や三木郭（城の区画）からなる「連郭式平山城」であり、発掘調査区域は、徳島城の南東の一角に位置し、江戸時代の絵図から「三木郭」や城下町徳島の出入口のひとつである「寺島口」にあたる。

3. 調査成果

(1) 集水用石組

192号線歩道のNTTケーブル管路部分で、1m×1m、高さ0.4mの石組遺構を検出。縦20×横15×厚さ10cm程度の石を6～7列、3～4段積み。南西側1/3は攪乱。年代は、16世紀後半から17世紀前半、城内遺構の可能性。

(2) 寺島口門台石列

寺島口門台の北側と南側の石垣間の通路東端を示す石列を、幅約0.5m、長さ約2mにわたり検出。年代は、幕末以前と考えられる。

(3) 側溝石組

長蔵の南側で、「側溝石組」を、東西約3.5mにわたり検出（溝幅は約25cm）。年代は、明治時代以前、江戸時代の長蔵に関連する遺構の可能性。

【参考】

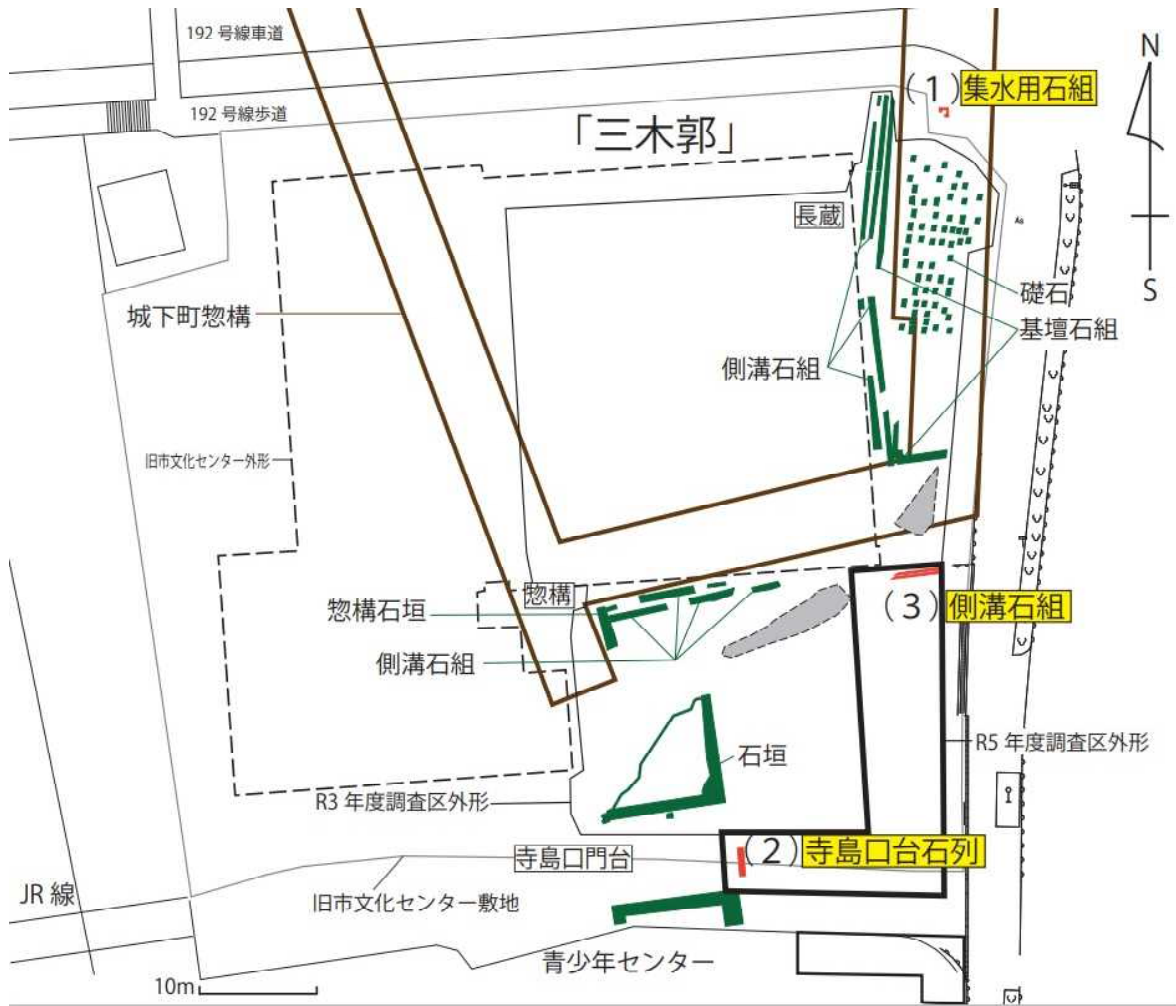
○令和 3 年度発掘調査結果（現地保存）

- ①長蔵（徳島城の一画「三木郭」にあった藩の米蔵）
 - ・「基礎となる礎石」、「土台となる基壇石組」、「側溝石組」の一部
- ②寺島口門台（城下町の出入り口の一つである寺島口の土台）
 - ・「石垣」の一部
- ③惣構（城下町や徳島城を石垣で囲いこんだ外郭）
 - ・「石垣」の一部

4. 対応

(1) 集水用石組

管路敷設工法変更を再検討したが、遺構周辺は軟弱地盤である上、管路が遺構直下を通るため、記録保存の方針。



調査区と遺構配置図



(1) 集水用石組



(3) 側溝石組



(2) 寺島口門台石列